

第1回「治水技術検討会」(平成18年10月10日、木津川上流河川事務所)において全参加者に対して、定道成美氏より『治水技術者としての心構え』(手書きメモのコピー)を配布され、説明されたもの

S. SADAMICHI  
H18. 10. 10

以下、「手書きメモ」をワープロ化したもの

淀川とは  
澱川

なぜ、今ここにいるのか

今、なにをしようとするのか

・流域全体で【上・下流一体で】

目的 { 対立でなく、互いに助け合える治水計画 琵琶湖・  
淀川治水(戦略)計画をつくり、納得し、実行していく。

- ◎原点から全く初心にもどって
- ◎流域関係の河川管理者で(責任者)つくる
- ◎完全に理解・マスターする

(その為に)  
琵琶湖・淀川の { 洪水現象 } を精確に忠実に追求し、  
自然現象 } 理解し、  
納得する

ことが必要。

誠に青臭い言葉であるが、

「真理探究」=「洪水自然現象の探究」  
自然に対して忠実に行う。

を行う。なぜ?・なぜ?・なぜ? そうなるのか(の探究)  
自ら問いをいつも発する(自問する)

洪水現象は、全「データ」で示される データ である。

この「データ」は多くの先人達の苦勞と汗の結晶 である。

まさしく  
『洪水』と言う危険な現象の  
まっただ中で、あるいは  
日頃の努力の中でつくりだされたもの

データは「宝石」であると認識すること

つまり 洪水・自然現象を我々人間に解らせる

{ 神の言葉 } = 「神聖」なもの  
{ 神の語りかけ }

と思うべきである。

真理の探究 とは 「神聖なデータ」を

{ 探し  
集め(検証)、  
整理し、分析し、  
解読する。理解する。 } ことが必要である。

これが何よりも大切である。

これになされて、はじめて

(貯留関数)計算に入ることができる。計算は手段  
目的でない! 計算・モデルから入るのではない。

「データ」こそ全てである という認識。

自然の節理を無視して、**答を合わすのではない**

この作業、つまり「データ」に関する作業は

(真理の探究)、全作業の **95%** を占める

と思うこと。この作業はほぼ終わったと思ってよい。

あとはコンピュータの仕事である。

そして、「真理の探究」であるので

全て 自ら行う  
完全な自力作業 となる

コンサルは（原則として）使わない。

また、「真理の探究」であるので、超短期間であるが、  
6ヶ月間

現在の

「地位」をはなれること。浮き世をはなれる。

完全に忘れること

一人の技術者、一探求者として、

一人一人が「一人の人」として  
何が最高なのかを追求する。  
自分自身がためされることとなる。

これになされて はじめて

琵琶湖淀川流域の 誰でも納得できる

真の治水計画

誰でもが互いに助け合える治水計画

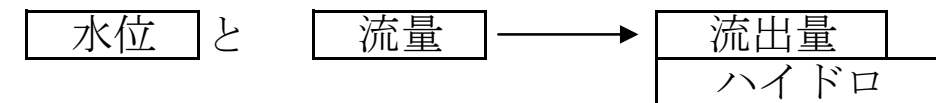
が、つくり出せる。

それなら お互いに  
協力しあおう  
という決意がなされる。

その結果として

一人の治水技術者 一人のプロ（本物の）  
として完成していく。

洪水現象は （渇水現象も同様である）



として現れる

この洪水現象を引き起こす



の3点セットで示される。